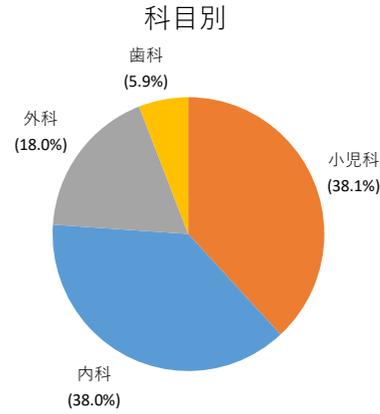


(2) 令和3年度小牧市休日急病診療所事業報告について
 ア 診療状況について
 (ア) 科目別診療状況

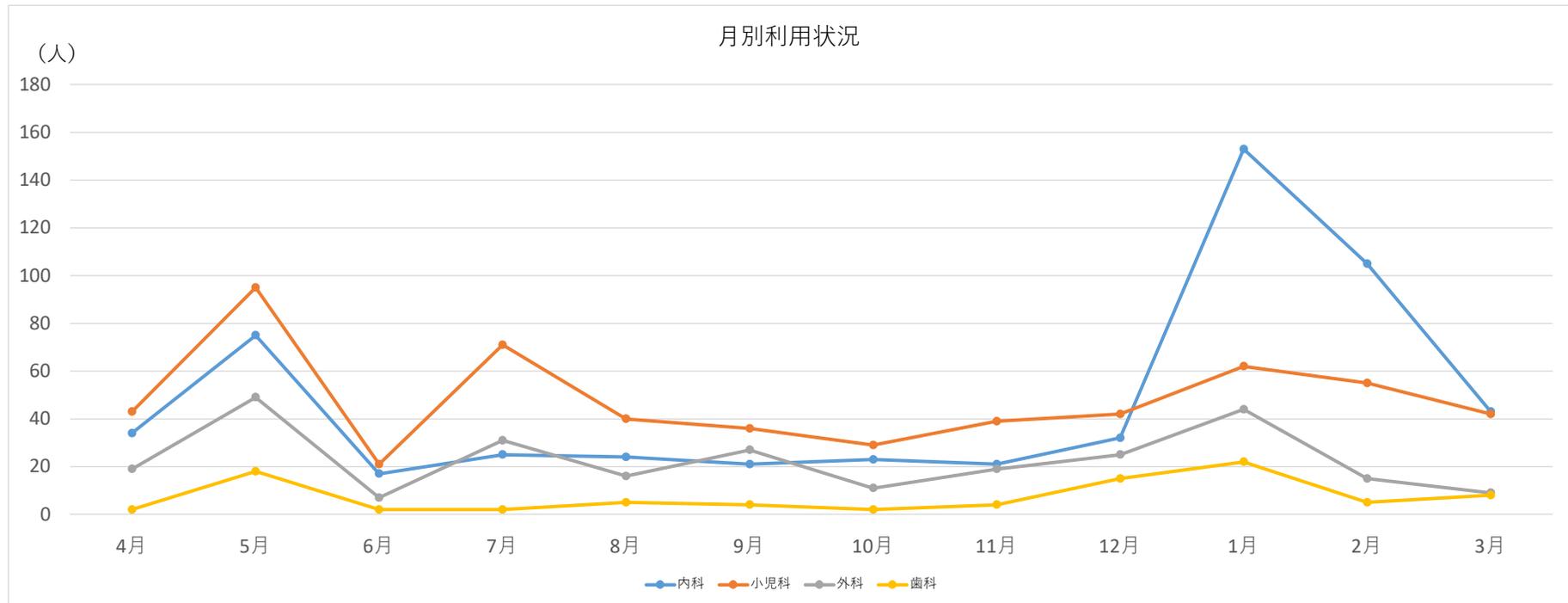
		令和3年度	令和2年度
科目別診療数 (人)	内科	573 (38.0%)	503 (41.2%)
	小児科	575 (38.1%)	361 (29.6%)
	外科	272 (18.0%)	268 (21.9%)
	歯科	89 (5.9%)	89 (7.3%)
合計		1,509 (100.0%)	1,221 (100.0%)
診療日数(日)		70	70

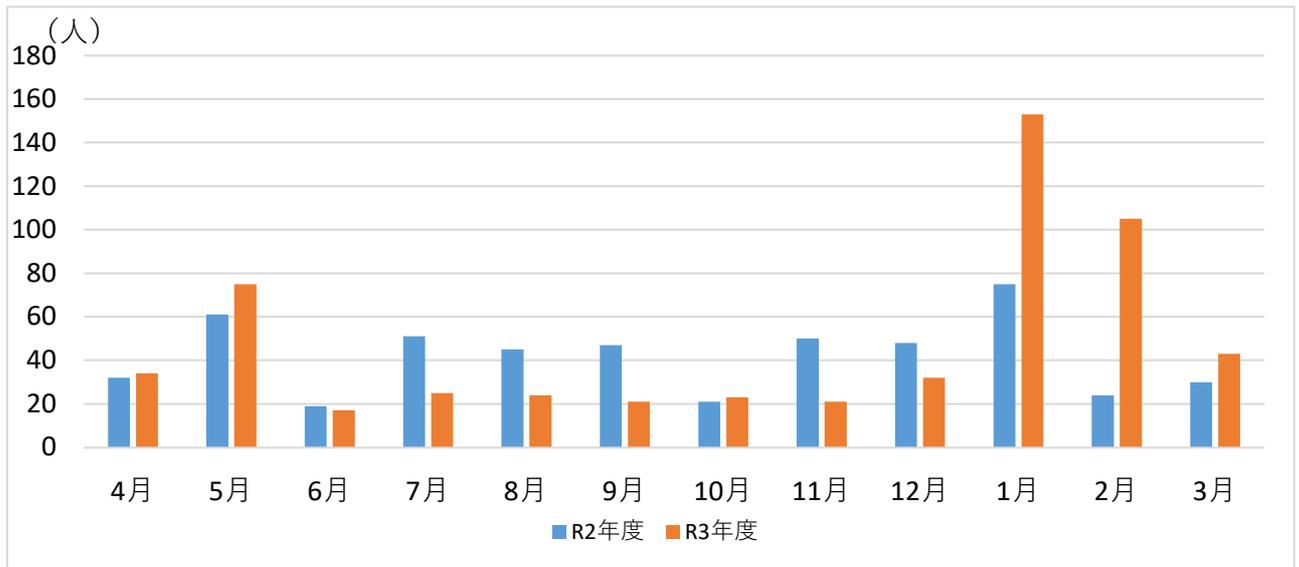


内科、小児科が全体の70.8%を占めています。



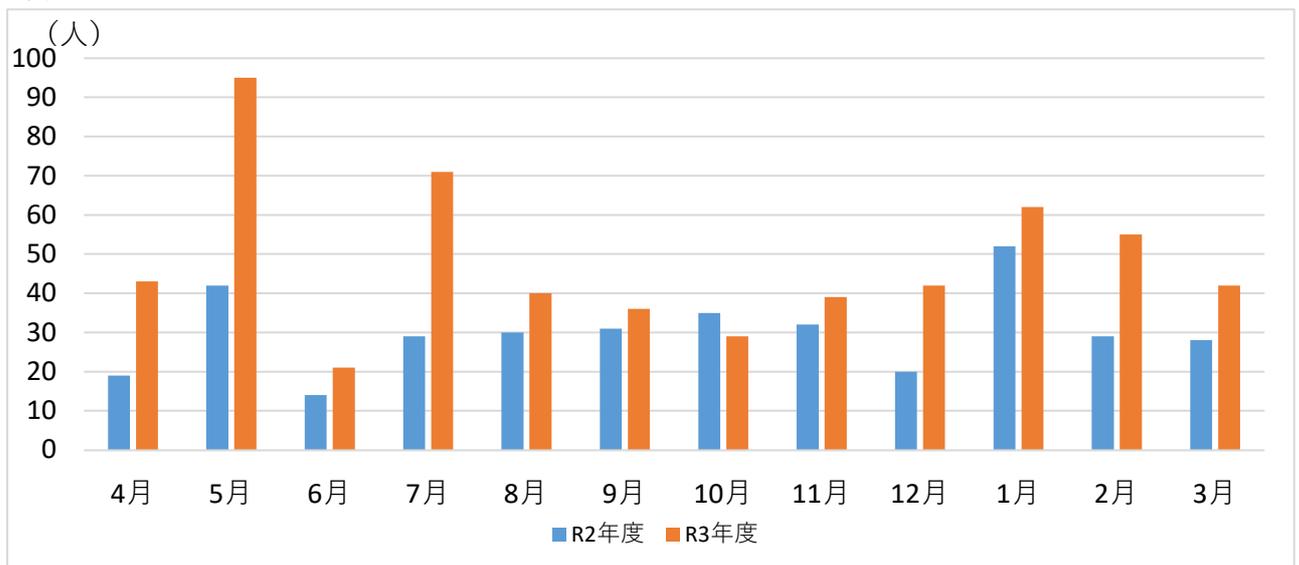
利用者の大半が市内在住者です。



(イ) 令和2年度及び令和3年度月別受診者数
内科

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2	受診者数	32	61	19	51	45	47	21	50	48	75	24	30	503
	診療日数	5	8	4	6	6	6	4	7	5	8	6	5	70
R3	受診者数	34	75	17	25	24	21	23	21	32	153	105	43	573
	診療日数	5	8	4	6	6	6	5	6	5	8	6	5	70
受診者数差 (R3 - R2)		2	14	-2	-26	-21	-26	2	-29	-16	78	81	13	70

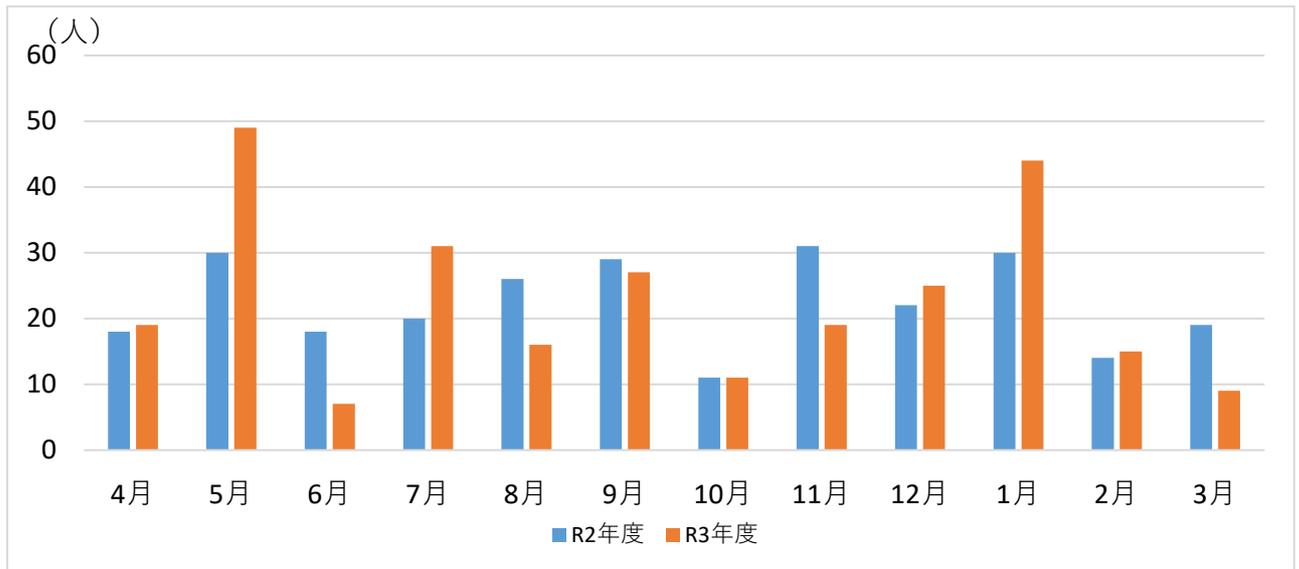
小児科



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2	受診者数	19	42	14	29	30	31	35	32	20	52	29	28	361
	診療日数	5	8	4	6	6	6	4	7	5	8	6	5	70
R3	受診者数	43	95	21	71	40	36	29	39	42	62	55	42	575
	診療日数	5	8	4	6	6	6	5	6	5	8	6	5	70
受診者数差 (R3 - R2)		24	53	7	42	10	5	-6	7	22	10	26	14	214

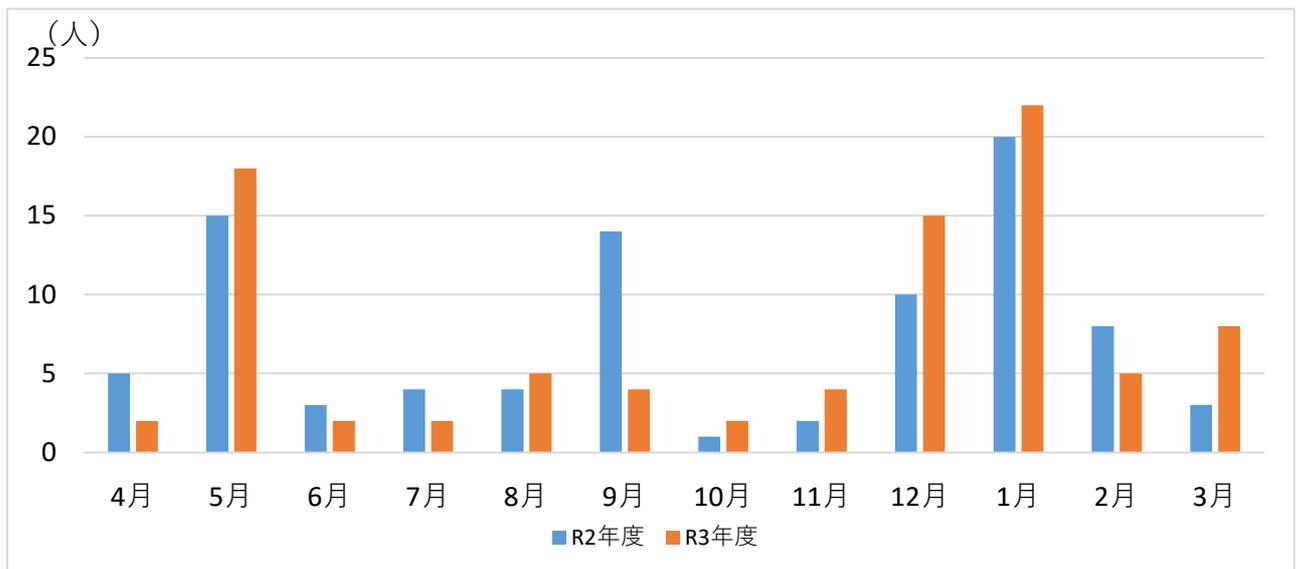
令和2年度と令和3年度の通年での患者数を比較すると内科が13.9%の増加、小児科が59.3%の増加となった。月別に見ると、内科は5月に23.0%の増加となっている他、1月に104%、2月に337.5%、3月に43.3%と大幅に増加している。その反面、7~9月及び11~12月はそれぞれ減少となっており、中でも9月と11月は50%以上の大幅な減少となっている。小児科は10月以外の全ての月で増加となっており、特に4、5、7、12月に関しては100%超の増加となっている。

外科



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2	受診者数	18	30	18	20	26	29	11	31	22	30	14	19	268
	診療日数	5	8	4	6	6	6	4	7	5	8	6	5	70
R3	受診者数	19	49	7	31	16	27	11	19	25	44	15	9	272
	診療日数	5	8	4	6	6	6	5	6	5	8	6	5	70
受診者数差 (R3 - R2)		1	19	-11	11	-10	-2	0	-12	3	14	1	-10	4

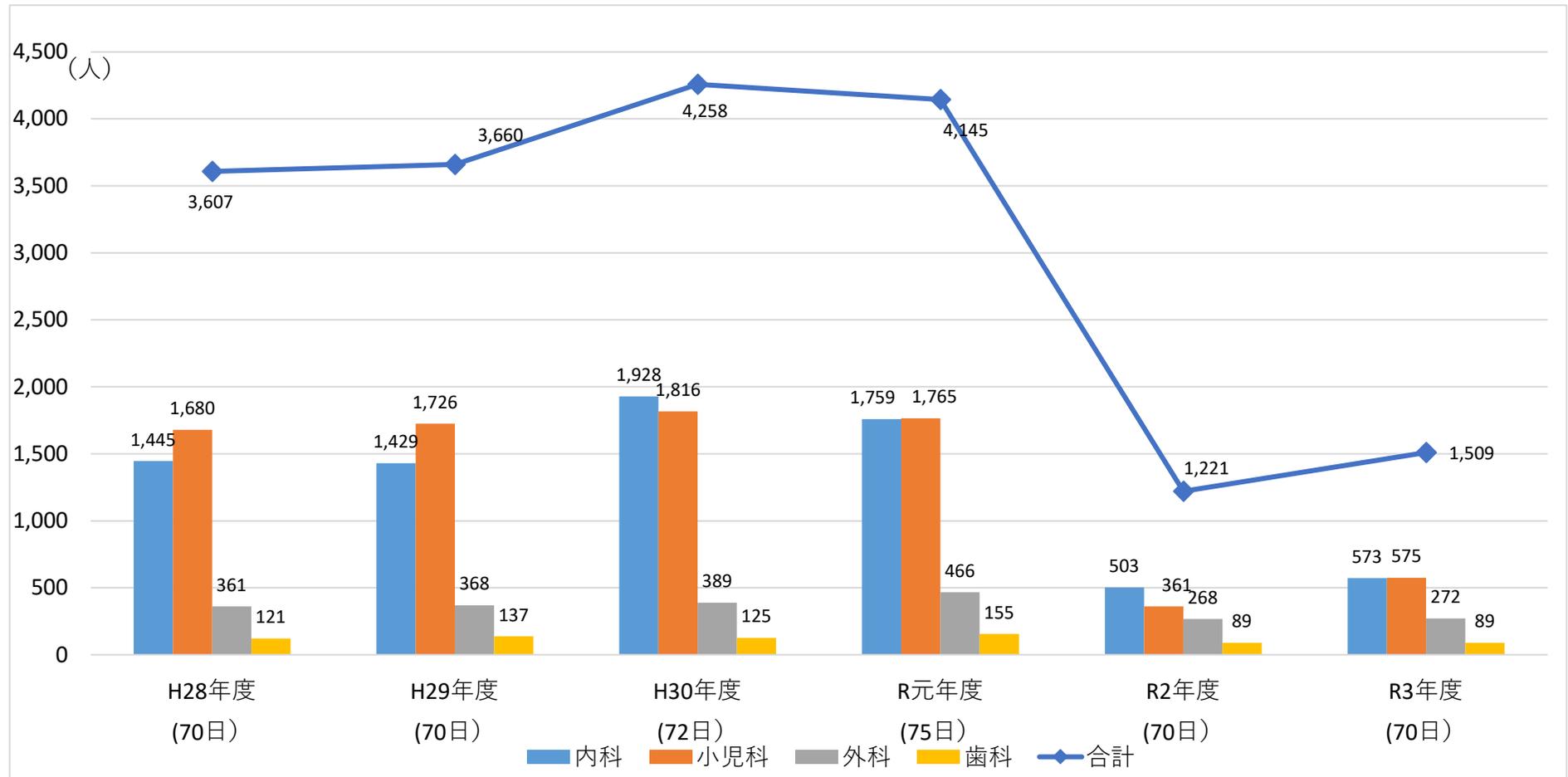
歯科



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2	受診者数	5	15	3	4	4	14	1	2	10	20	8	3	89
	診療日数	5	8	4	6	6	6	4	7	5	8	6	5	70
R3	受診者数	2	18	2	2	5	4	2	4	15	22	5	8	89
	診療日数	5	8	4	6	6	6	5	6	5	8	6	5	70
受診者数差 (R3 - R2)		-3	3	-1	-2	1	-10	1	2	5	2	-3	5	0

令和2年度と令和3年度の通年での患者数を比較すると外科が1.5%の増加、歯科が増減なしとなった。月別に見ると、外科は5月に63.3%の増加となっている他、7月に55%、1月に46.7%と大幅に増加している。その反面、6月、1月、3月はそれぞれ減少となっており、中でも6月と3月は50%以上の大幅な減少となっている。歯科は5、8、10～1、3月で増加、4、6、7、9、2月で減少となっている。特に9月は71.4%の大幅減少となっている。

(ウ) 平成28年度～令和3年度利用者実績（年度ごと）



平成28年度から平成30年度にかけて続いた増加傾向から、令和元年度に減少へ転じ、令和2年度はこの傾向が加速したが、令和3年度は再度増加へと転じ、令和2年度と比較して23.6%の増加となっている。令和元年度から令和2年度にかけて大幅な減少となった要因としては、令和元年度（R1第49～52週及びR2第1～5週）と比較して令和2年度（R2第50～53週及びR3第1～5週）におけるインフルエンザ患者数が激減したこと（愛知県全体の定点医療機関あたりの患者数を比較した際、99.93%の減少となっている）、新型コロナウイルス感染症に起因する診療控えが生じることが複合的に発生したためと考えられる。令和3年度は令和2年度とほぼ同様の傾向にありつつ、新型コロナウイルス感染症患者（疑い含む）の来院が増加したことにより、内科、小児科の患者数が増加、全体としても前年度比増となったと思われる。

